



## シャーシ管理

---

- [Cisco UCS Manager GUIでのシャーシ管理](#) , on page 1
- [シャーシの削除および解放に関するガイドライン](#) (3 ページ)
- [シャーシの認識](#), on page 4
- [シャーシの稼働中止](#) (5 ページ)
- [シャーシの削除](#), on page 5
- [単一シャーシの再稼働](#), on page 6
- [複数のシャーシの再稼働](#) (6 ページ)
- [シャーシの番号付け直し](#) (7 ページ)
- [シャーシのロケータ LED の電源投入](#), on page 8
- [シャーシのロケータ LED の電源切断](#), on page 9
- [インベントリからのゾーン分割ポリシーの作成](#) (9 ページ)
- [シャーシの POST 結果の表示](#), on page 10

## Cisco UCS Manager GUIでのシャーシ管理

Cisco UCS ドメイン のすべてのシャーシはCisco UCS Manager GUIを使用して管理およびモニタできます。

### Cisco UCS S3260 シャーシ

Cisco UCS Manager リリース 4.2(3) では、Cisco UCS 6536 ファブリック インターコネクタで Cisco UCS S3260 シャーシがサポートされています。

Cisco UCS Manager リリース 4.1(1) では、Cisco UCS 64108 ファブリック インターコネクタで Cisco UCS S3260 シャーシがサポートされています。

Cisco UCS Manager リリース 4.0(1) では、Cisco UCS 6454 ファブリック インターコネクタで Cisco UCS S3260 シャーシがサポートされています。

Cisco UCS Manager リリース 3.1(2) では、Cisco UCS 6300 シリーズの Cisco UCS S3260 シャーシのサポート、6200 シリーズ ファブリック インターコネクタ設定が導入されました。

Cisco UCS S3260 シャーシは、スタンドアロン環境でも、または Cisco Unified Computing System の一部としても動作するように設計された、4U シャーシです。次の主要なコンポーネントがあります。

- 4つの 1050 W AC 電源モジュール (2+2 共有および動作の冗長モード)
- 2つのシステム I/O コントローラ (SIOC) スロット
- 2つのストレージスロット、そのうちの1つは拡張ストレージに使用可能



(注) シャーシの2番目のサーバスロットは、追加の4台の3.5インチドライブ用のHDD拡張トレイモジュールで利用できます。

- 2番目のサーバの代わりに、オプションの4台の3.5インチHDD拡張トレイモジュールを含む56個の3.5インチドライブベイ
- 6TB HDDを使用した最大360TBのストレージ容量
- 個々のサーバモジュールに3.5インチドライブを割り当てるように設定できるシリアル接続 SCSI (SAS) エクспанダ
- シャーシの2台のサーバは、IOエクспанダを含む1台のダブルハイトサーバと交換可能です

## Cisco UCS 5108 ブレードサーバシャーシ

Cisco UCS 5100 Series ブレードサーバシャーシは、論理的にはファブリックインターコネクトの一部であるため、一貫した単一の管理ドメインが形成され、管理の複雑性が軽減します。管理ドメイン内では、サーバ管理はファブリックインターコネクトによって処理されます。また、I/Oおよびネットワーク管理は、すべてのシャーシおよびブレードサーバに拡張されます。Cisco Unified Computing System は、ユニファイドファブリックに基づき構築された I/O インフラストラクチャにより、単純で合理化されたシャーシを実現しつつ、包括的な I/O オプション群を提供できます。この結果、シャーシの基本コンポーネントは次の5つだけです。

- パッシブミッドプレーンとアクティブ環境モニタリング回路を備えた物理的なシャーシ
- 背面に電源入力が設けられた4つの電源ベイと、前面パネルからアクセスでき、冗長構成およびホットスワップ可能な電源装置
- それぞれ2つのファンを備えた、ホットスワップ可能な8つのファントレイ
- 背面パネルからアクセス可能な2つのファブリックエクステンダスロット
- 前面パネルからアクセス可能な8つのブレードサーバスロット

ブレードサーバシャーシでは、取り外し可能なディバイダによって柔軟なパーティション分割が可能であり、次の2つのブレードサーバフォームファクタを扱うことができます。

- ハーフ幅のブレードサーバでは、電源への接続と、2つの 10 GBASE-KR 接続（各ファブリック エクステンダ スロットに1つ）を使用できます。
- フル幅のブレードサーバでは、電源への接続と、各ファブリック エクステンダに対して2つの接続を使用できます。

## UCS Mini の拡張シャーシ

Cisco UCS Manager リリース 3.1(1) では、既存の単一シャーシ Cisco UCS 6324 ファブリック インターコネクトセットアップ上で、拡張 UCS 5108 シャーシがサポートされるようになりました。この拡張シャーシでは、サーバ 8 台を追加して構成することができます。プライマリ シャーシとは異なり、拡張シャーシでは IOM がサポートされます。現時点では、UCS-IOM-2204XP および UCS-IOM-2208XP IOM がサポートされます。拡張シャーシの接続には、FI-IOM のスケーラビリティ ポートのみを使用できます。



**重要** 現時点では、Cisco UCS Manager は UCS Mini に対して 1 台の拡張シャーシのみをサポートします。

拡張シャーシを使用するには、次の操作を行います。

- 2 台目の Cisco UCS 5108 シャーシを、既存の単一シャーシ Cisco UCS 6324 Series ファブリック インターコネクト構成に、スケーラビリティ ポートを使用して接続します。
- シャーシ ディスカバリ ポリシーを設定します。
- サーバポートを設定し、2 台目のシャーシが検出されるまで待機します。

## シャーシの削除および解放に関するガイドライン

Cisco UCS Manager を使ってシャーシの削除や解除を実行するかを決定するときは、次のガイドラインを考慮します。

### シャーシの稼働中止

物理的に存在し接続されているシャーシを、一時的に Cisco UCS Manager 設定から削除する場合は、シャーシの稼働停止を実行します。解放されたシャーシは最終的に再稼働することが予測されるので、シャーシ情報部分は Cisco UCS Manager によって、将来使用するために残されています。

### シャーシの削除

削除は、システムから物理的にシャーシを削除する（取り外す）場合に実行します。シャーシの物理的な削除が完了すると、そのシャーシの設定は、Cisco UCS Manager で削除できます。



(注) 現在物理的に存在し接続されている場合、Cisco UCS Manager からシャーシを削除できません。

削除されたシャーシを設定に追加し直す必要がある場合、再接続し、再検出する必要があります。再検出中、Cisco UCS Manager は以前シャーシが持っていた ID と異なる新しい ID を割り当てます。

## シャーシの認識

シャーシを確認することにより、Cisco UCS Manager がリンク数の変化を認識していること、およびトラフィックが使用可能なすべてのリンクでフローすることが保証されます。



**Note** シャーシの確認応答により、シャーシへのネットワークおよびストレージの接続が完全に切断されます。

ファブリックインターコネクト上でポートを有効または無効にした後、1分以上待ってからシャーシを再認識させます。シャーシを再認識させるのが早すぎると、シャーシからのサーバトラフィックのピン接続が、有効または無効にしたポートに対する変更を使用して更新されないことがあります。

### Procedure

- ステップ 1** [ナビゲーション] ペインで、[機器] をクリックします。
- ステップ 2** [機器] > [シャーシ] を展開します。
- ステップ 3** 確認するシャーシを選択します。
- ステップ 4** [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5** [Actions] 領域の [Acknowledge Chassis] をクリックします。
- ステップ 6** Cisco UCS Manager に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

Cisco UCS Manager によって、シャーシの接続が解除され、システム内にシャーシとファブリックインターコネクトとの接続が再確立されます。

## シャーシの稼働中止

### 手順

- ステップ 1 [ナビゲーション]ペインで、[機器]をクリックします。
  - ステップ 2 [機器]>[シャーシ]を展開します。
  - ステップ 3 稼働を停止するシャーシを選択します。
  - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
  - ステップ 5 [Actions] 領域で、[Decommission Chassis] をクリックします。
  - ステップ 6 Cisco UCS Manager GUI に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- 稼働が停止するまでには、数分間かかります。シャーシが設定から削除されると、Cisco UCS Manager はシャーシを [Decommissioned] タブに追加します。

## シャーシの削除

### Before you begin

次の手順を実行する前に、シャーシを物理的に取り外します。

### Procedure

- ステップ 1 [ナビゲーション]ペインで、[機器]をクリックします。
  - ステップ 2 [機器]>[シャーシ]を展開します。
  - ステップ 3 削除するシャーシを選択します。
  - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
  - ステップ 5 [Actions] 領域で [Remove Chassis] をクリックします。
  - ステップ 6 Cisco UCS Manager に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- 削除が完了するまでに数分かかる場合があります。

## 単一シャーシの再稼働

この手順により、シャーシがコンフィギュレーションに再度追加され、このシャーシにシャーシディスカバリポリシーが適用されます。この手順を実行すると、シャーシおよびシャーシ内のすべてのサーバにアクセスできるようになります。



**Note** この手順は、Cisco UCSC S3260 シャーシには適用されません。

### Procedure

- ステップ 1 [ナビゲーション]ペインで、[機器]をクリックします。
- ステップ 2 [機器 (Equipment)] ノードを展開します。
- ステップ 3 [Chassis] ノードをクリックします。
- ステップ 4 [Work] ペインで [Decommissioned] タブをクリックします。
- ステップ 5 再稼働するシャーシについて、次の手順を実行します。
  - a) シャーシを右クリックし、[Re-commission Chassis] を選択します。
  - b) [Re-commission Chassis] ダイアログボックスの [Chassis ID] フィールドに、シャーシに割り当てた ID を入力するか、矢印を使用して選択します
  - c) [OK] をクリックします。
- ステップ 6 Cisco UCS Manager GUI に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

この手順が終了するまでに数分かかる場合があります。シャーシが再稼働すると、Cisco UCS Manager はシャーシ検出ポリシーを実行し、シャーシを [Navigation] ペインのリストに追加します。

## 複数のシャーシの再稼働

この手順により、シャーシがコンフィギュレーションに再度追加され、このシャーシにシャーシディスカバリポリシーが適用されます。この手順を実行すると、シャーシおよびシャーシ内のすべてのサーバにアクセスできるようになります。



(注) この手順は、Cisco UCSC S3260 シャーシには適用されません。



- (注) 複数のシャーシを同時に再稼働する際に、シャーシの番号を付け直すことはできません。Cisco UCS Manager はシャーシに前と同じ ID を割り当てます。

#### 手順

**ステップ 1** [ナビゲーション] ペインで、[機器] をクリックします。

**ステップ 2** [機器 (Equipment)] ノードを展開します。

**ステップ 3** [Chassis] ノードをクリックします。

**ステップ 4** [Work] ペインで [Decommissioned] タブをクリックします。

**ステップ 5** 再稼働する各シャーシの行で、[Re-commission] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** [Save Changes] をクリックします。

**ステップ 7** Cisco UCS Manager GUI に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

この手順が終了するまでに数分かかる場合があります。シャーシが再稼働すると、Cisco UCS Manager はシャーシ検出ポリシーを実行し、シャーシを [Navigation] ペインのリストに追加します。

## シャーシの番号付け直し



- (注) Cisco UCS Manager からブレードサーバ番号を再設定することはできません。ブレードサーバに割り当てられる ID は、シャーシ内のその物理スロットで決まります。ブレードサーバの番号を再設定するには、サーバをシャーシ内の別のスロットに物理的に移動する必要があります。



- (注) この手順は、Cisco UCSC S3260 シャーシには適用されません。

#### 始める前に

シャーシ間で ID を交換する場合は、まず両方のシャーシを解放し、シャーシ解放 FSM が完了するのを待ってから、番号の再設定手順に進みます。

## 手順

ステップ1 [ナビゲーション]ペインで、[機器]をクリックします。

ステップ2 [機器] > [シャーシ]を展開します。

ステップ3 [Chassis] ノードに以下が含まれていないことを確認してください。

- 番号を付け直すシャーシ
- 使用する番号を持つシャーシ

これらのシャーシのいずれかが [Chassis] ノードにリストされている場合は、それらのシャーシの稼働を停止します。続行する前に、稼働停止 FSM が完了し、シャーシが [Chassis] ノードにリストされなくなるまで待機する必要があります。これには数分かかる場合があります。

ステップ4 [Chassis] ノードをクリックします。

ステップ5 [Work] ペインで [Decommissioned] タブをクリックします。

ステップ6 番号を付け直すシャーシについて、次の手順を実行します。

- a) シャーシを右クリックし、[Re-commission Chassis] を選択します。
- b) [Re-commission Chassis] ダイアログボックスの [Chassis ID] フィールドに、シャーシに割り当てる ID を入力するか、矢印を使用して選択します
- c) [OK] をクリックします。

ステップ7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[はい]をクリックします。

# シャーシのロケータ LED の電源投入

## Procedure

ステップ1 [ナビゲーション]ペインで、[機器]をクリックします。

ステップ2 [機器] > [シャーシ]を展開します。

ステップ3 位置を特定する必要があるシャーシをクリックします。

ステップ4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ5 [Actions] 領域で [Turn on Locator LED] をクリックします。

ロケータ LED の電源がすでにオンになっている場合、この処理は実行できません。

シャーシの LED が点滅を開始します。



## シャーシのロケータ LED の電源切断

### Procedure

**ステップ 1** [ナビゲーション] ペインで、[機器] をクリックします。

**ステップ 2** [機器] > [シャーシ] を展開します。

**ステップ 3** ロケータ LED の電源をオフにするシャーシを選択します。

**ステップ 4** [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

**ステップ 5** [Actions] 領域で [Turn off Locator LED] をクリックします。

ロケータ LED の電源がすでにオフになっている場合、この処理は実行できません。

シャーシの LED の点滅が停止します。

## インベントリからのゾーン分割ポリシーの作成

既存のインベントリとディスクの所有権からディスク ゾーン分割ポリシーを作成できます。



(注) 既存のインベントリからディスク ゾーン分割ポリシーを作成すると、Cisco UCS S3260 シャーシでのみサポートされます。

### 手順

**ステップ 1** [ナビゲーション] ペインで、[機器] をクリックします。

**ステップ 2** [機器] > [シャーシ] を展開します。

**ステップ 3** ゾーン分割ポリシーを作成するシャーシを選択します。

**ステップ 4** [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

**ステップ 5** [Actions] 領域で、[Create Zoning Policy from Inventory] をクリックします。

**ステップ 6** 表示された [Create Zoning Policy from Inventory] ダイアログボックスで、次を実行します。

- [Disk Zoning Policy Name] を入力します。
- ポリシーを作成する組織を選択します。
- [OK] をクリックします。

**ステップ 7** 表示される確認ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

## シャーシの POST 結果の表示

シャーシ内のすべてのサーバおよびアダプタに対する Power On Self-Test プロセスで収集されたすべてのエラーを表示できます。

### Procedure

---

**ステップ 1** [ナビゲーション]ペインで、[機器]をクリックします。

**ステップ 2** [機器] > [シャーシ]を展開します。

**ステップ 3** Power On Self-Test (POST) の結果を表示するシャーシを選択します。

**ステップ 4** [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

**ステップ 5** [Actions] 領域で [View POST Results] をクリックします。

[POST Results] ダイアログボックスに、シャーシ内の各サーバとそのアダプタに対する POST の結果が一覧表示されます。

**ステップ 6** (Optional) アダプタのプロパティを表示するには、[Affected Object] カラムをクリックします。

**ステップ 7** [OK] をクリックして [POST Results] ダイアログボックスを閉じます。

---

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。